

経営比較分析表

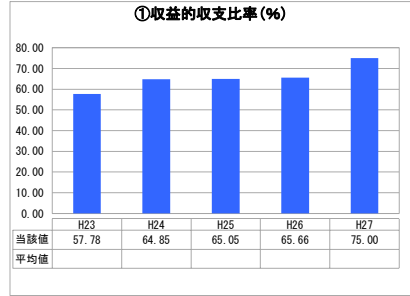
佐賀県 小城市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cc3	
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	21.28	90.65	2,970

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
45,851	95.81	478.56
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
9,723	2.86	3,399.65

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
□	平成27年度全国平均

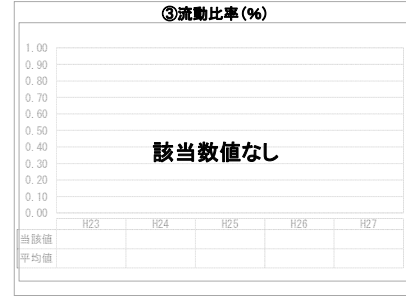
1. 経営の健全性・効率性



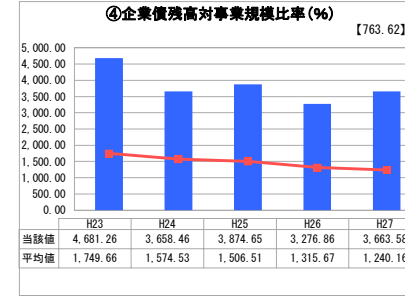
「単年度の収支」



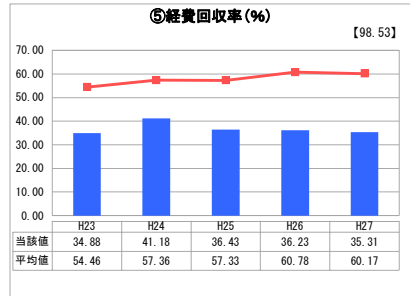
「累積欠損」



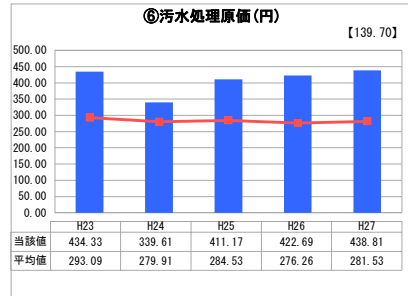
「支払能力」



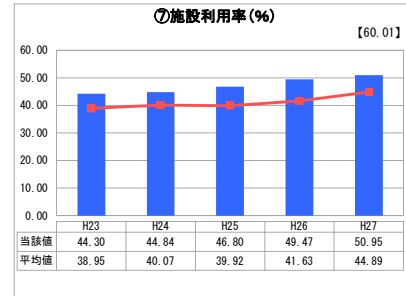
「債務残高」



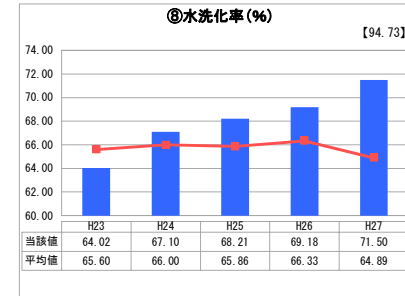
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

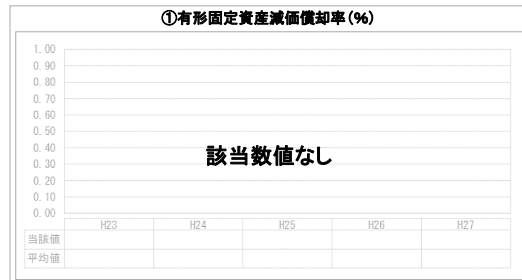


「施設の効率性」

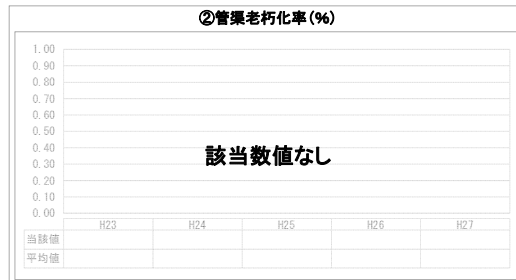


「使用料対象の捕捉」

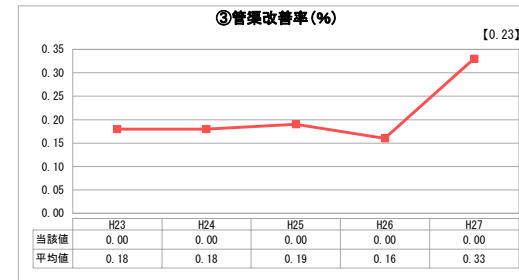
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

当市の公共下水道について、収益的収支比率は改善傾向にあるものの、100%を下回っており、経営改善を行う必要がある。

また、企業債残高対事業規模比率についても、類似団体と比較して高い状態にある。未整備地区が多いことや処理場の増設により今後も多大な投資が必要であるため、投資規模や料金水準の見直しにより経営改善を検討する必要がある。

当市では、類似団体より水洗化率が高い状態にあるにもかかわらず、経費回収率が低い状態になっている。経費回収率が類似団体より低いのは、汚水処理原価が類似団体より高くなっているためである。ただし、未整備地区が多く整備が進むにつれ収益的収支の向上は見込めるので、今後経費回収率の改善の見込みはある。

施設利用率については、類似団体より高くなっているため、今後も計画的に整備を進めていく。

2. 老朽化の状況について

当市の公共下水道の供用開始は平成15年3月28日以降となっており、下水道管に法定耐用年数を超えたものはない。

全体総括

当市では、経営の健全性・効率性のために未整備地域の下水道整備を進め、公共下水道への接続率を向上させて水洗化を高めていく必要がある。そのため戸別訪問による接続促進等で水洗化を促進していく必要がある。

また、使用料改定を行い経費回収率の改善をすることも検討していく必要がある。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。
 ※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。